

於テ本官ト伊國大使トノ間ニ交換スルコト
トセリ之ハ何等仔細アルニ非ス始メ當方ヨ
リ公文交換方ヲ提議シタルニ先方ノ都合ニ
テ延引シタル結果先方ノ希望ニ依リ當地ニ
於テ取極ヲ為スコトト為リタル次第ナリ
二十二番末松 本案ニ付テハ詳細ナル報告ア
リ誠ニ今日ノ事態ニ於テ事情已ムヲ得サル
モノト認メラルルニ付此ノ儘可決セラレ然
ルヘク又多クノ議論ナカルヘキカ故ニ讀會
ヲ省略シテ直ニ採決アラムコトヲ希望ス

議長(清浦) 讀會省略ノ發議ニ對シ別ニ御異議
ナキニ付讀會ヲ省略シテ直ニ採決ス原案賛
成ノ諸君ノ御起立ヲ請フ

(全會一致可決)

○

議長(清浦) 次ニ中學校令中改正ノ件小學校令
中改正ノ件帝國大學令改正ノ件私立學校令
中改正ノ件以上四件ヲ一括シテ議題トス此
ノ内審査委員會ニ於テ修正ヲ加ヘタルモノ
アリ先例ニ依リ其ノ修正シタルモノヲ以テ

原案ト為ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シ審
査報告ヲ求ム

委員長末松 本日ノ議題ト為リタル此ノ四件

ハ過日本院ノ議決ヲ經テ公布アリタル大學

令及高等學校令ニ引續キタルモノト見テ可

ナリ而シテ此等ノ案件ハ箇條ハ複雑ナルモ

所謂學制改革ノ見地ニ於テハ過日ノ兩案ニ

比較シ甚タ重要ナラサルモノナリ其ノ條項

ハ多クハ從來ノ法令ノ整理ニ屬スルモノニ

シテ茲ニ其ノ一々ニ就キ説明スルハ却テ煩

雜ニ互リ諒解ニ不便ナルヘキカ故ニ專ラ其

ノ趣旨精神ノ存スル所ヲ撮リテ簡明ニ説明

スヘシ

先ツ中學校令中改正ノ件ハ現行中學校令ニ

二三ノ改正ヲ加ヘムトスルモノニシテ之ニ

付テハ委員會ニ於テ一字ノ修正ヲ加フルコ

トナシ蓋シ本案ハ最初御諮詢アリ一旦御取

上ノ後更ニ御諮詢アリタルモノニシテ改メ

テ御下付アリタル本案ハ曩ニ大學令及高等

學校令ニ付本院ノ議決ニ於テ採リタル主義

附
密
附

ヲ用フルモノナリ本案ノ第一點ハ第一條ニ
德育ニ關スル文字ヲ加ヘタルニ在リ是レ大
學高等學校、中學校ト相竝ヒテ彼此權衡ヲ共
ニスル所以ナリ北海道及沖繩縣ノ中學校ニ
關スル事項ハ既ニ從來他ノ法令ニ依リテ行
ハレタル所ヲ今回本令ニ現シテ明ニスルニ
過キス又中學校ニ豫科ヲ置クコトヲ定ムル
ハ高等學校ニ豫科ヲ置クノ制ト同一歩調ニ
出ツルモノナリ

次ニ小學校令中改正ノ件ハ主トシテ地方學

事通則、市制及町村制ノ改正ニ伴フ立案ニシ
テ此等ノ法令ノ改正ニ從ヒ小學校令中關係
ノ條項ヲ整理スルコト本件ノ重ナル目的ナ
リ尤モ其ノ以外ニ於テ高等小學校ノ教科目
ニ改正ヲ加フル點アリ之ニ付テハ委員會ニ
於テ少シク修正スル所アリ畢竟劃一ノ弊ヲ
打破シテ適切ナル教育ヲ授ケシメムトスル
ノ趣旨ナリ

次ニ帝國大學令改正ノ件ハ過日發布セラレ
タル大學令カ官公私立ヲ通シテ各大學ヲ支

配スル根本法規ニシテ帝國大學令ハ本令ノ
下ニ立ツ帝國大學ノ規程ナラサルヘカウサ
ルカ故ニ此ノ趣旨ニ基キテ現行帝國大學令
ヲ改正スル為立案セラレタルモノナリ而シ
テ現行令中残スヘキモノハ残シ其ノ他ハ削
リタリ本案ノ第一條ニ於テハ帝國大學ハ數
個ノ學部ヲ綜合シテ之ヲ構成スルコトヲ定
ム本條ニ付委員會ノ修正アルモ其ノ意味ニ
於テハ原案ト異ナル所ナシ原案修正案共ニ
帝國大學ヲ以テ官立綜合大學ニ限り官立單

科大學ニハ全ク關係スル所ナシ此ノ點ハ議
論ノ餘地アル所ニシテ當局ハ官立單科大學
ハ未タ其ノ實例ナキカ故ニ之ニ關スル規程
ニ付テハ將來別ニ考慮スヘシト辯明シ又委
員中ニ所謂帝國大學ハ官立綜合大學ノ義ニ
解スヘシト為ス意見アリ結局本案ハ專ラ官
立綜合大學ニ關スル規程ト為リタリ本案ニ
於テハ大學令修正ノ結果トシテ總テ分科大
學ヲ改メテ學部ト為シタリ又原案ニハ各帝
國大學ニ於ケル分科大學ノ種類ヲ列舉シタ

ルモ永久的の規定タル本令ニ屢増減アルヘキ
各帝國大學ノ學部ヲ明示シ將來學部ノ増減
アル毎ニ本令改正ノ手續ヲ取ルハ決シテ適
當ノ處置ニ非ス寧ロ別箇ノ勅令ヲ以テ之ヲ
規定スルニ如カサルカ故ニ本令ニ於テハ單
ニ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムト為スニ止メタ
リ以上ノ諸點カ原案ニ對スル修正ノ重ナル
箇條ナリ

次ニ私立學校令中改正ノ件ハ曩ニ委員會ニ
於テ大學令及高等學校令ヲ審査シタル結果

ニ基キ當局ニ於テ立案セラレタルモノニシ
テ其ノ第一點ハ大學令及高等學校令ノ原案
ニ私立ノ大學及高等學校ハ豫算及決算ヲ文
部大臣ニ届出テ文部大臣ハ之ニ對シ豫算ノ
變更ヲ命スルコトヲ得ルノ明文アリシモ之
ヲ削リテ私立學校令中ニ同様ノ規定ヲ加フ
ルヲ可トスルコトヲ議決シタル結果今回本
令中ニ其ノ條項ヲ追加スルコトニシテ其ノ
第二點ハ大學令及高等學校令ニ於テ文部大
臣ハ私立ノ大學及高等學校ニ對シ監督權ヲ

附
録
院

有シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得ルノ規定アルモ其ノ命令ニ違反シタル場合ノ制裁ニ關スル規定ナキカ故ニ今回本令中ニ其ノ條項ヲ追加スルコトトナシ本案ニ付テハ委員會ニ於テ些ノ修正ヲ加フルコトナシ
要スルニ以上四件中二件ニ付テハ一ノ修正ナク他ノ二件ニ付テハ若干ノ修正アルモ此ノ修正ニ對シ當局ニ於テ別ニ異議ナキ旨言明セラレタリ

終ニ希望事項ニ付一言セムニ過般答申シタル大學令及高等學校令審査報告ノ末尾ニ記載シタル希望事項ハ必スシモ大學及高等學校ノミニ關スルモノニ非ス中學校及小學校ニ互ルモノアルカ故ニ當局ニ於テ相當留意アラムコトヲ希望セサルヲ得ス又現行小學校令第一條ハ德育及智育ニ關スル文字ヲ並へ掲ケタルモ今日ノ精密ナル見地ニ於テハ必スシモ精透ナラス為ニ種々ノ解釋ヲ試ミルノ餘地ナキニアラサルカ故ニ當局ニ於テ

之ニ對シ適當ノ修正ヲ施サハ各階級ノ學校
ヲ通シテ德育ノ旨意完全ニ一致スルニ至ル
ヘシ尤モ本條ノ字句ニ付テハ教育界ニ種々
ノ意見アルヘキカ故ニ場合ニ依リテハ其ノ
意見ヲ探ルノ必要アルヘシ旁本院ニ於テ直
ニ措辭ニ關スル勸告ヲ取テスルコトナキモ
事ノ實質ハ不完全ナルモノト認ムルカ故ニ
當局ニ於テ十分考慮アラムコトヲ希望ス
大體ノ報告以上ノ如シ
十九番(九鬼) 余ハ之ヨリ本案ニ對シ又教育ノ

全般ニ對シ重要ナル意見ヲ申述ヘムト欲ス
其ノ事タルヤ最モ重大ニシテ且最モ複雑ナ
ル問題ナルカ故ニ陳述スル所多少冗長ニ互
ルノ嫌アルヘキハ豫メ特ニ寛恕ヲ請フ所以
ナリ尚教育ノ全般ニ互ル事項ナルカ故ニ前
回ノ會議ニ於テ發言スル筈ナリシモ其ノ時
機ヲ失シタル為已ムヲ得ス今日本席ニ於テ
陳述スル次第ナリ
今回制定ノ大學令ニ於テ余カ多年ノ希望タ
ル德育ノ問題カ其ノ條文ニ掲ケラレタルヲ

見テ實ニ欣喜雀躍ニ堪ヘサルモノアリ然レ
トモ仔細ニ考察シ其ノ内容ノ極メテ貧弱ナ
ルコトヲ發見スルニ及ヒテ甚シク失望シタ
リ本邦教育ノ大體ヲ見ルニ小學校及中學校
ニ於テハ多少德育ノ事項ニ留意セサルニ非
サルモ殆ト其ノ威力ナク其ノ效果ノ見ルヘ
キモノナシ即チ全國ノ子弟概テ虚榮ニ流レ
浮華ニ互リ其ノ行狀淺薄ヲ極ム之ヲ教育家
及父兄ニ尋ヌルニ皆教導上ノ準繩ナキ為實
ニ途方ニ暮ルル有様ナリ此ノ際法令ニ一言

一句ノ名句ヲ加フルモ紋切型ニテ訛示ヲ為
スト均シク到底其ノ效果ヲ期スヘカヲサル
ヤ必セリ畢竟德育ノ標準及手段ヲ徹底的ニ
決定セサレハ不可ナリ今日本邦ノ教育ハ科
學ノ一方ニ偏シ德育ハ駄目ナリト云フモ敢
テ過言ニ非ス況ンヤ大學ニ至リテハ全然獨
逸風ニ心酔シ道德ヲ顧ミス科學萬能ヲ信シ
科學旺盛ナレハ即チ國家旺盛ナリト為ス或
中法學ノ威力ハ萬事萬物ヲ壓倒シ其ノ弊頗
ル大ニシテ表面ヲ糊塗スルモ其ノ内容ハ醜

陋ニ堪ヘサルモノアリ夫ノ前代議士板倉中
カ法廷ニ於テ陳述セル所ヲ聞クニ衆議院内
ノ惡徳真ニ甚シト云フヘシ其ノ所言多少ノ
誇張アルヘシト雖又事實絶無ナリト為スヘ
カラス實ニ院内ノ醜陋ハ極度ナリ而カモ是
レ全國ノ代議士團ニシテ國家ノ選良ナリ其
ノ輩カ千圓二千圓ノ賄賂ヲ授受ストハ何事
ソヤ總選舉ノ際一圓二圓ノ辨當カ問題ト為
リテ直ニ監獄ニ投セラルル者アリ心性善ナ
ル者モ科學者ノ法文ニ觸ルルトキハ直ニ刑

餘ノ人ト為リ如何ナル惡心ヲ抱キ如何ナル
大罪ヲ犯スモ法律ヲ潜ルノ巧智アル者ハ能
ク刑ヲ免レ堂々タル人物トシテ天下ニ濶歩
セリ今ヤ全國到ル處百鬼夜行ノ為體ナリ耻
ナク人格ナク知レ切リタル虚言ヲ吐キテ恥
トセス古人カ民免レテ耻ナシト歎シタルヨ
リ更ニ甚シキモノアリ斯ノ如キ不淨ナル人
心ヲ馴致シタルハ一ニ科學萬能ニシテ道德
ヲ願ミサルノ弊ナリ高等ノ教育ヲ受クルニ
從テ益傲慢不遜ト為リ自負心長シテ敬虔ノ

態度ヲ失ヒ力即チ權利ナリト云フカ如キ無
禮ノ態度ヲ示スハ誠ニ苦々シキ次第ナリ是
レ畢竟科學萬能ナリト為ス大學者及大政治
家ノ罪ナリ此ノ弊ヲ改ムルニハ德育上ノ準
繩ヲ決シ徹底的ニ其ノ方針ヲ定メサルヘカ
ラズ今日德育ノ皆無ヲ來シタルハ科學ノミ
ニ偏シテ内面ノ善惡ヲ構ハサルノ結果ナリ
德育上ノ準繩ヲ定ムルニ漢學ノミニテハ固
ヨリ時態ニ適セス又日本ノ宗教ニハ威力ナ
シ新古ノ道德竝ニ東西ノ道德ノ相接近シツ

ツアル際濫リニ一方ノ見地ニノミ囚ハルル
ハ不利ニシテ又危險ナリ宜シク大活眼ヲ開
キテ世界ノ大勢ヲ洞見スヘシ世上往々西洋
ノ宗教ヲ論スル者アルモ日本ノ當局ハ之ヲ
容レズ耶蘇教コハ種々雜多ノ宗派アリ余ハ
之ヲ直ニ我國ノ學校教育ニ加フヘシト云フ
ニ非ス大體之ヲ是認シ學校教育ト相竝ヒテ
其ノ效果ヲ發揮スルコトヲカムヘキナリ一
概ニ耶蘇教ヲ忌ミ嫌フハ其ノ外見ニ迷ヘル
者ナリ斯様ニ淺薄ナル見地コリ危險ノ極ナ

リ事々物々ニ妄断スルカ故ニ本邦ノ德育ニ
方針立メサルナリ反對者ノ辯論ニハ宗教ノ
事ハ聞クモウルサニト云フカ如キ語氣アリ
又文部省ノ宗教ニ對スル取締寛緩ニシテ現
ニ宗教者流中ニハ羊頭ヲ懸テ狗肉ヲ賣ル
カ如キ輩アリト攻撃スルモ斯ノ如キハ全部
ノ實相ヲ調査セサル我田引水論ニシテ近世
獨逸流儀ノ自儘ナル見解ナリ獨逸ニテモカ
ント「ゲ」テノ時代ニハ立派ナル真ノ學者輩
出シタルモ其ノ後「ナポレオン」ノ勢力ニ反對

スル為百年以來學者ノ間ニ自儘ノ說多ク行
ハレ梟雄怪傑竝ヒ現ハレ曲學阿世ノ徒亦輩
出シ赫々タル功業ヲ以テ一時人目ヲ眩惑シ
恐ルヘキ言語口ヲ衝テ出テ以テ人心ヲ誤リ
タルモノ少カラサルナリ而シテ今ヤ其ノ反
動来リ今日ノ獨逸ハ非常ナル慘状ヲ呈スル
ニ至レリ嘗テ此ノ大事ヲ豫想シテ宗教上ノ
勢力ヲ培養セムトスル者アリシモ微力ニシ
テ失敗ニ歸セリ理想ノ穏和ナルハ耶蘇教十
リ宗教家カ理想ヲ行フニハ決シテ暴力ヲ行

フコトナシ或ハ宗教家ノ中未夕上達セサル
者注々ニシテ事ヲ誤ルコトアラムモ是レ決
シテ理想ノ非ナルニ非ス其ノ罪ヲ宗教ニ歸
スヘカラサルナリ方今世界ノ大戦亂ニ臨ミ
テ虚無黨共產黨ノ如キ危険思想アルハ一ニ
物質主義ノ罪ナリ極端ナル物質主義ハ常ニ
無信教ニ胚胎ス孔子カ天ノ威靈ト云ヒ耶蘇
カ神ト云ヒ釋迦カ佛ト云フカ如キ理想ノ主
義其ノモノニ於テハ何等ノ危険アルコトナ
シ歐洲ノ社會ニ瀰蔓スル危険思想ハ形而下

ノ見物質ノ論ナリ故ニ最近獨逸ニ於テハ危
険思想ニ對スル防禦手段トシテ俄ニ宗教ノ
カヲ借ラムトシタルモ時既ニ晚クシテ何等
ノ效果ヲ見サリシナリ歐洲ノ社會ニ威力ヲ
有スル耶蘇教ハ兎モ角モ共產黨虚無黨ノ壓
迫ニ對抗セル對抗セル事跡アルモ本邦ノ宗
教ハ誠ニ脆弱ナルモノニシテ到底斯ノ如キ
壓迫ニ耐フヘクモ非ス近來學者間ニクロバ
トキンノ著書流行シ殊ニ其ノ翻譯書ニ依リ
テ惡黴菌カ注入セラレツツアリ此ノ思想上

ノ激浪カ我カ岸頭ヲ打ツニ當リ淺薄ナル見
地、間違ヒタル取調ニ依リテ國家重大ノ問題
ヲ齟齬セムトスルカ如キハ斷シテ不可ナリ
惟フニ我帝國ハ古來世々至慈至仁ノ 聖天
子ノ恩惠ニ浴セサルハナシ夫ノ歐洲ニ於テ
見ル所ノ上ヨリ壓迫シ下ヨリ反抗スルカ如
キハ我國ニ於テ絶テ見サル所ナリ嘗テ弓削
道鏡平將門ノ變アリシモ逆臣ハ立口ニ誅ニ
服セリ 聖天子至慈至仁ニシテ如何ナル惡
物モ現ハルルコトナシ然レトモ宇内ノ大勢

ヲ按スルニ禍害ヲ未然ニ防遏セサルヘカラ
ス今ニ於テ唯物的見地ニ晏如タルハ窳モ危
險ナリ我國ト獨逸トノ間ニハ固ヨリ顯著ナ
ル差異アリト雖輓近科學萬能ノ風潮ニ付テ
ハ稍相似タル所ナキニ非ス其ノ獨逸ハ今ヤ
遂ニ自ラ亡滅セリ若シ早ク之ニ德育ヲ施シ
タラムニハ彼ハ慥ニ世界ノ盟主タリシナラ
ム今日我國ニ於テ速ニ此ノ科學萬能ノ迷夢
ヲ覺醒セサルヘカラス今回高等教育ノ施設
ヲ擴張スルハ大戰後ノ處置トシテ又世界ノ

變局ニ對スル方策トシテ固ヨリ大賛成ナリ
唯一面科學ヲ獎勵スルト同時ニ他面徹底的
ニ德育ヲ振興スルコト甚ク必要ナリ即チ徳
育ノ準繩ヲ確立セラレムコトヲ切望シテ止
マサルナリ

四番(原) 唯今中學校令中改正ノ件外三件ニ關
スル審査報告ヲ承リ其ノ御修正並ニ御精神
ノ在ル所ニ悉ク賛成ス又九鬼男爵ノ御演説
ハ如何ニモ國家ヲ憂フルノ御精神ニ出ツル
モノニシテ其ノ御精神ニ於テハ誠ニ御尤ノ

次第ト考フ尤モ多クハ御議論ニ互ルカ故ニ
之ニ對シ更ニ本官ヨリ多ク辯スルノ要ナカ
ルヘシト信ス唯御演説中ニ衆議院ハ不徳漢
ノ集團ナルカ如ク認メラルル語句アリタリ
即チ刑餘ノ身ト為リタル板倉中ナル悖徳漢
カ己ノ罪ヲ免レムカ為ニ漫リニ同僚ヲ罵詈
シタル言辭ヲ投ヘ其ノ言ニ多少ノ誇張アル
ヘキモ其ノ事全然無根ニハ非サルヘシトノ
根據ニ基キ衆議院ヲ以テ悖徳者ノ集團ナル
カ如ク目セラルル言語アルヲ承レリ凡ソ衆

議院ト云ヒ貴族院ト云ヒ憲法ニ依リテ設立
セラレタル團體ニ對シ斯ノ如キ侮辱ヲ加ヘ
ラルルハ如何乎ト思フ竊ニ按スルニ本官ヨ
リ其ノ取消ヲ求ムルノ權利アルカ否カヲ知
ラサルモ右ノ點ニ對シテハ絶對ニ反對ニシ
テ政府ハ全然之ニ同意セサルコトヲ言明ス
十九番(九鬼) 余ハ先刺悖德者ノ言ヲ捉ヘテ其
ノ云フ所ノ事實必スシモ絶無ニハ非サルヘ
シト云ヘリ而シテ其ノ事實絶無ニ非ストセ
ハ云々トノ趣旨ナリシカ自然衆議院ノ侮辱

ニ互ルカ如キ言辭ヲ取消ス

議長(清浦) 九鬼顧問官ニ一寸注意セムニ先刺

ノ御發言中ニ諸公カ最モ恐ルル耶蘇教ト舊
教云々ノ言葉アリシ様記憶ス而シテ諸公ト
ハ茲ニ列席セララル諸公ヲ指スカ如シ然ル
ニ顧問官中ニ此ノ議場ニ於テ斯ノ如キ言語
ヲ發セラレタル者ナシ九鬼顧問官ノ言葉ハ
聊カ穏ナラサルヤノ感アリ其ノ意味如何
十九番(九鬼) 右ハ本席ニ現ハレタル言議ニ非
ス實ハ前回會議ノ際本席ヲ煩ササル為別席

ニ於テ寄々相談シタル折此ノ言アルヲ聞キ
タルナリ故ニ諸公ト云フモ本席ノ諸公ヲ指
シタルニハ非サルナリ

二十二番(末松) 九鬼男爵ノ御言葉中ニ委員長
云々トアリ事余ニ關スルモノアルカ其ノ御
陳述ハ少シク誇張ニ失スルノ嫌アルカ如シ
實ハ前回別席ニ於テ九鬼男爵ヨリ御質問ニ
關スル下相談アリ耶蘇教云々ノ點ヲ質問セ
ムト思フトノ御言葉ニ對シ余ハ此ノ問題ハ
當日ノ議案ニ關係ナク且右等御質問ノ為徒

ニ議事ノ紛亂ヲ来スヘキカ故ニ其ノ發言ヲ
止メラレムコトヲ希望スル旨ヲ申述ヘタル
ノミナリ其ノ際委員長トシテノ所説如何ト
形式ヲ以テ余ニ御尋ネアリタルニ非ス其ノ
問答ヲ本席ニ持出サルルハ甚々感服ニ難キ
次第ナリ一言之ヲ辯明ス

十九番(九鬼) 余ハ毫末モ誇張スルコトナシ余
ハ前回委員長其ノ他ノ數氏ニ相談シタリ唯
今ノ末松委員長ノ御發言ニハ多少ノ差引ア
ルカ如シ尤モ委員長カ余ノ所言ヲ以テ誇張

ナリトセラルルハ余カ委員長一人ニ關シテ
陳述シタルモノト誤解セラレタル結果ナラ
ム余ハ實ニ他ノ數氏ニモ相談シタルナリ
議長(清浦) 本案ハ各位ニ於テ既ニ御熟讀アリ
タルコトト認メ讀會ヲ省略シテ直ニ採決ス
ヘシ委員長報告ノ通り賛成ノ諸君ノ御起立
ヲ請フ

(全會一致可決)

議長(清浦) 之ニテ開會ス

(正午開會)

副議長子爵

清浦彦彦

書記官長

二上兵次

書記官

入江貫一

村上恭一

勅令第

號

中學校令中左ノ通改正ス

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教

育ヲ為スヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ養

成ニカムヘキモトス

第二條第二項中府縣ヲ北海道及府縣ニ改ム

第三條中北海道及沖繩縣ヲ除ク外ヲ北海道

地方費又ハニ改ム

第四條中又ハ町村學校組合ヲ市町村學校組合

及町村學校組合ニ改ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五年トス

中學校ニハ補習科ヲ置クコトヲ得

中學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科

ヲ置クコトヲ得

補習科及豫科ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ

定ム

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當

該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒

業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ

之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者

タルヘシ

第十四條 削除

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

小學校令中左ノ通改正ス

第二條中又ハ其ノ區ヲ若ハ其ノ學區又ハ市町

村學校組合ニ改ム

第八條中區ヲ學區ニ改ム

第八條ノ二 府縣知事ハ町村町村學校組合又ハ其ノ一部ニシテ前條各項ノ一ニ該當スル事情アル場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ児童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ市又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

府縣知事ハ市ノ一部ニシテ就學セシムヘキ児童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ其ノ児童

ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

第十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第七條又ハ第八條ニ依リ郡長ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメムトスルトキハ組合規約ヲ定メ關係町村ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更シ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ組合ヲ解カシメムトスルトキ亦同シ

同條中區ヲ學區ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
第八條ノ二ニ依リ府縣知事ニ於テ兒童教育
事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメ
ムトスルトキハ關係市町村町村學校組合及
學區ノ意見ヲ聞クヘシ

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校
敷校アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學
校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トア
ルトキハ市ヲ公畫シ其ノ一區若ハ數區ニ對

シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童
教育事務委託ノ為其ノ使用スヘキ小學校ヲ
指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市
及學區ノ意見ヲ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムト
スルトキ亦同シ

同條中町村内若ハ町村學校組合内ノ一區若ハ
數區ニ對シ又ハ町村若ハ町村學校組合ヲ公畫
シテ數區ト為シテ町村若ハ町村學校組合ヲ分
畫シニ及區ヲ及學區ニ改ム

第十四條 市町村ハ市町村又ハ其ノ學區ノ負

擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得
市町村又ハ町村ハ其ノ協議ニ依リ市町村學
校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校
ヲ設置スルコトヲ得
前項ノ町村學校組合ヲ設ケムトスルトキハ
組合規約ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ組合
規約ヲ變更シ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ組
合ヲ解カムトスルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ指揮
ヲ受クヘシ

第十六條 私立小學校ノ設置及廢止ハ設立者
ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身國語算
術日本歴史地理理科唱歌體操トシ女兒ノ為
ニハ裁縫ヲ加フ
前項教科目ノ外圖畫唱歌手工農業商業外國
語女兒ノ為ニハ家事ノ一科目又ハ數科目ヲ
加ヘ尚女兒ノ為ニハ家事ヲ加フ
土地ノ情況ニ依リ前項教科目ノ外圖畫外國
語其ノ他必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得

前二項ノ教科目ハ之ヲ随意科目又ハ選擇科目ト為スコトヲ得

第二十三條中加除ニ又ハ第二十條第二項ノ教科目ヲ定メムトスルトキハ之ヲ加除セムトスルトキハ之ヲ若ハ町村學校組合ヲ市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ改ム

第三十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

官立若ハ府縣立ノ學校若ハ學習院ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分又ハ高等學校若ハ中學校ノ豫科ハ兒童或學ニ關シテハ

之ヲ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中唱歌體操裁縫並第二十條第二項及第三項ノ教科目ニシテ文部大臣ノ定ムル一科目又ハ數科目ヲ限り教授スル者ヲ專科正教員トス

第四十四條中市長ヲ市長又ハ市町村學校組合管理者ニ改ム

第五十一條中市町村町村學校組合又ハ其ノ區

ヲ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村町村
學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ニ
町村學校組合又ハ其ノ區ヲ市町村町村學校組
合又ハ其ノ學區ニ改ム

第五十五條中市町村又ハ市町村市町村學校
組合又ハ其ノ區ノ學務委員ヲ學區ノ學務委員ニ
區ノ負擔ヲ學區ノ負擔ニ改ム

第五十八條中又ハ其ノ區ヲ若ハ其ノ學區又ハ
市町村學校組合ニ改ム

第六十條中又ハ町村學校組合長ハ市町村ヲ市

町村學校組合管理者又ハ町村學校管理者ハ市

町村市町村學校組合ニ改ム

第六十一條中町村學校組合長ヲ町村學校組合

管理者ニ區ニ屬スルヲ學區ニ屬スルニ改ム

第六十二條第二項中町村學校組合ヲ市町村學

校組合又ハ町村學校組合ニ同條第三項中區ヲ

學區ニ同條第五項中又ハ町村學校組合長ヲ市

町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者

ニ改ム

第六十四條 削除

明治四十年勅令第五十二號附則第五項中第
十九條ノ教科目中ヲ削ル

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等小學校ニ於テ授クル教

科目ニシテ第二十條第二項ノ教科目ニ該當ス

ルモノ圖書ハ第二十三條ノ認可ヲ受ケタルモ

ノト看做ス

勅令第 號

帝國大學令

第一條 帝國大學ニハ數分科大學ヲ置クハ數

個ノ學部ヲ綜合シテ之ヲ構成ス

第二條 帝國大學及其ノ分科大學ハ左ノ如シ

各帝國大學ニ置ク學部ノ種類ハ別ニ勅令ヲ

以テ之ヲ定ム

東京帝國大學

法科大學

經濟科大學

醫科大學

工科大学

文科大学

理科大学

農科大学

京都帝國大學

法科大学

醫科大学

工科大学

文科大学

理科大学

東北帝國大學

醫科大学

理科大学

九州帝國大學

醫科大学

工科大学

農科大学

北海道帝國大學

醫科大学

農科大学

第三條 帝國大學ニ大學院ヲ置ク

第四條 帝國大學ニハ官制ノ定ムル所ニ依リ
總長學部長教授助教授其ノ他必要ナル職負
ヲ置ク

必要ナル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ講師
ヲ囑託スルコトヲ得

第三五條 帝國大學ニ評議會ヲ置キ各分科大
學學部長及各分科大学學部ノ教授二人以内
ヲ以テ之ヲ組織ス

帝國大學總長ハ評議會ヲ召集シ其ノ議長ト

ナル

第四六條 教授ニシテ評議員タル者ハ各分科
大學學部毎ニ教授ノ互選ニ依リ文部大臣之
ヲ命ス

前項評議員ノ任期ハ三年トス

第五七條 評議會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一 分科大学學部ニ於ケル學科ノ設置及廢
止

二 講座ノ設置及廢止ニ付諮詢シタル事項

三 大學部内ノ制規

四 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ノ諮
詢ニタル事項

評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付意見ヲ
文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第六八條 分科大學學部ニ教授會ヲ置キ教授
ヲ以テ之ヲ組織ス

分科大學學部長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長
トナル

第七九條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス
一 分科大學學部ノ學科課程ニ關スル事項

二 學生ノ試験ニ關スル事項

三 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ノ諮
詢ニタル事項

第八十條 分科大學學部長ハ必要アリト認ム
ルトキハ助教授又ハ囑託講師ヲ教授會ニ列
席セシムルコトヲ得

第九十一條 分科大學學部ニ講座ヲ置ク
講座ハ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム但シ教授

ヲ缺ク場合其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於
テハ助教授又ハ囑託講師ヲシテ之ヲ擔任セ

シムルコトヲ得

第十二條 講座ノ種類及其ノ數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一三條 帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上效績アル者ニハ勅旨ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

九州帝國大學農科大學及北海道帝國大學醫科大學ノ各學科開設ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム

第三條乃至第五條ノ規定ハ北海道帝國大學ニ

付テハ醫科大學ノ學科開設ノ日迄之ヲ適用セ

ズ

勅令第 號

私立學校令中左ノ通改正ス

第十條中第九條ニ依リテ法令ノ規定ニ依リニ改ム

第十一條ノ二中中學校又ハ專門學校ノ設立者ハ「大學專門學校高等學校又ハ中學校」ニ於テ

ハニ改ム

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

以書翰致啓上候陳者本使ハ今回接手セル訓令ニ遵ヒ伊太利王國政府ノ名ニ於テ閣下ニ對シ次ノ提議ヲ通告スルノ光榮ヲ有シ候

千九百十二年十一月二十五日附伊日通商航海條約ハ千九百十九年六月三十日ニ至ル迄效力ヲ存續スヘク右期限到来以後ハ兩締約

國ノ一方ヨリ其ノ廢棄ヲ聲明スル迄ノ間暗黙ニ更新セラレタルモノト看做ス但シ廢棄ノ場合ニ於テハ其ノ聲明後三月ヲ經テ條約ハ效力ヲ失フ

本使ハ貴國政府ニ於テ本件有効期間ノ延長ニ同意セラルヘキヤ否ヤニ付成ルヘク速ニ貴答ニ接シ度致希望候

右申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

千九百十八年十二月 日

外務大臣子爵内田康哉閣下

以書翰致啓上候陳者本月 日附貴翰了承本

大臣ハ閣下ニ對シ帝國政府ニ於テハ左記伊太

利王國政府ノ提議ニ同意ヲ表スル旨通告スル

ノ光榮ヲ有シ候

千九百十二年十一月二十五日附日伊通商航

海條約ハ千九百十九年六月三十日ニ至ル迄

效力ヲ存續スヘク右期限到来以後ハ兩締約

國ノ一方ヨリ其ノ廢棄ヲ聲明スル迄ノ間暗

點ニ更新セラレタルモノト看做ス但シ廢棄

ノ場合ニ於テハ其ノ聲明後三月ヲ經テ條約

ハ效力ヲ失フ

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意

ヲ表シ候敬具

千九百十八年十二月 日

内田康哉

伊太利國特命全權大使侯爵クサニ閣下